



(共同リリース)

2026年3月19日
日本航空株式会社
株式会社アスカラボ

本邦航空業界初、航空機3Dモデルを活用した 整備情報プラットフォームの運用を開始

株式会社JALエンジニアリング(本社:東京都大田区、代表取締役社長:濱本 隆士、以下「JALEC」)と株式会社アスカラボ(本社:東京都世田谷区、代表取締役社長:岡本 泰英、以下「AsukaLab」)は、航空機整備の現場での情報活用を大きく進化させる、航空機3Dモデルを活用した整備情報プラットフォーム(以下「本システム」)を共同開発し、このたび運用を開始しました。



本システムは、航空機の3Dモデルと360度カメラの画像を組み合わせ、バーチャル空間上に実際の整備環境を再現しており、整備士はタブレットやパソコンなどのIT端末から整備対象箇所を直感的に確認しながら、作業に必要な品質情報や技術資料、安全に関する情報へ素早くアクセスできます。AsukaLabが有する3Dアーキテクチャ設計の強みと、JALECが長年蓄積してきた整備の知見を融合させた、本邦航空業界初の情報基盤です。



これまで分散していた情報へのアクセスを一元化することで、整備士が作業前に必要な情報を容易に確認できるようになりました。これにより、情報を探す時間を減らし内容の理解や作業準備に集中できるため、更なる整備品質の向上が期待されます。また、整備作業前のブリーフィングにおいて360度カメラ画像を活用することで、作業箇所の状況を視覚的に共有できるため、安全確認や危険予知活動の充実にもつながっています。

JALECは、今後も航空機整備における豊富な知見や情報を最大限に活用し、安全運航を支えてまいります。

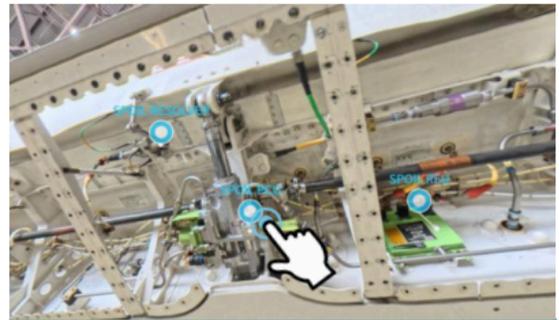


1 | 各機種の3Dビュー



機体を3D表示し、赤色アイコンから対象箇所の360°カメラ画像を確認できます。

2 | 360°カメラ画像ビュー



360°カメラ画像により、対象箇所の状況を視覚的に共有できます。

3 | 関連整備情報を一覧表示



主要部品ごとに配置された青色のアイコンをタップすると、関連する整備情報の一覧が表示されます。

4 | タイトルから詳細を表示



360°カメラ画像により、対象箇所の状況を視覚的に共有できます。

JALECとAsukaLabは、整備現場の知見とデジタル技術を融合させ、航空機の安全性と整備品質をさらに高める新たな価値創造に引き続き挑戦してまいります。

■ 株式会社JALエンジニアリングについて(<http://www.jalec.co.jp/>)

JALグループの整備会社4社と、一部機能を除くJAL本体の整備本部の統合により2009年に設立。羽田、成田、伊丹の各空港を主な拠点に、JALをはじめジェイエアやZIPAIR Tokyo、スプリング・ジャパンなどJALグループが運航する約200機の航空機の整備と整備計画の策定・管理を担当しており、長年の経験の中で培ってきた幅広い知識や高度な技術力を活用した高品質の整備により、空の安全を支えています。

■ 株式会社アスカラボについて(<https://www.asukalab.co.jp/>)

株式会社アスカラボは、2008年設立の東京大学発テクノロジーベンチャーです。大学での研究活動を通じて培った3Dデータ処理技術を基盤に、XR(VR/MR/AR)アプリケーション開発、3Dデータを活用した課題解決ソリューションの提案、画像・3Dデータ処理と機械学習を組み合わせたAIシステム開発の3領域で事業を展開しています。単体アプリケーションからクラウド基盤を伴う大規模システムまで幅広く対応し、バーチャルとリアルを繋いで日々の生活や業務を豊かにすることを目指しています。

以上